

平成22年10月13日

環境モデル都市の進ちょく状況について

1. 北九州スマートコミュニティ創造事業が国の実証事業に選定（4月8日）
 - ・経済産業省が、政府の新成長戦略に位置付けられる日本型スマートグリッドの構築と海外展開を実現するための「次世代エネルギー・社会システム実証事業」を行う全国4地域の1つに、八幡東区東田地区（約120ha）を選定。
 - ・マスタープランを経済産業大臣に提出。（8月11日）
 - ・事業期間：平成22年～平成26年までの5年間。
2. 北九州エコハウスのオープン（4月21日）
 - ・ストック型都市への転換を進め、家庭での省エネ型のライフスタイルの提案を行うための「21世紀環境共生型モデル住宅（北九州エコハウス）」を、八幡東区東田の環境ミュージアムにオープン。
 - ・施設概要：木造2階建て（在来木造工法）延床面積 約180㎡
 - ・建設費：総額9,500万円
3. 響灘ビオトープの仮オープン（5月22日）
 - ・若松区響町の産業廃棄物埋立地跡地に「響灘ビオトープ」を仮オープン、第1回エコツアーに一般市民22名が参加。
 - ・正式オープンは、平成24年春（予定）。
 - ・仮オープンの間は、概ね月1回、市職員同行によるエコツアーを開催予定。
4. 平成21年度環境モデル都市の取組に対する国の評価（5月26日）
 - ・内閣官房地域活性化統合事務局が、全国の13環境モデル都市の平成21年度の取組の進捗状況の評価、結果を公表。
 - ・本市は、最も評価が高いグループと評価を受けた。（北九州市、京都市、富山市、北海道下川町の4都市）
5. アジア低炭素化センターのオープン（6月4日）
 - ・八幡東区平野の北九州市国際村交流センター内に「アジア低炭素化センター」を開設。（センター長：小宮山宏・前 東京大学 総長）
 - ・同センターによる今後の海外での技術移転に関して助言を行うための「アジア低炭素化委員会（委員長：下村輝夫・前 九州工業大学 学長）」を設置。（7月13日）
6. 小倉都心部低炭素まちづくり推進プランの発表（7月1日）
 - ・北九州市環境モデル都市行動計画のリーディング・プロジェクトの一つである『小倉都心部低炭素まちづくり推進プラン（愛称：紫川エコリバー構想）』を策定。
 - ・5つの基本方針と、具体化のための57の取組みを推進。
 - ・事業期間：平成21年～平成25年までの5年間。
7. 低炭素社会総合学習システム検討会の設置（7月9日）
 - ・本市の環境学習施設や自然など環境に関する資源を活かして、都市全体を一つの「低炭素社会総合学習システム」として整備するための検討会を設置。
 - ・第1回（7月）第2回（8月）検討会を開催。
 - ・検討結果は、本年11月中にとりまとめる予定。
8. 平成19年度の北九州市の温室効果ガス排出量（速報値）を算定（8月）
 - ・2007（平成19）年度の温室効果ガス排出量は、1,690万t - CO₂。
 - ・1990（平成2）年度と比較し、総排出量として6.6%（104万t - CO₂）増加。
 - ・前年度と比較し、総排出量として5.0%（81万t - CO₂）増加。